

「わくわくキャンプ」HP 原稿

○ 主催事業名

平成29年度主催事業「わくわくキャンプ」

○ ねらい

聴覚に障がいのある子どもたちを対象に、子どもたちに必要な情報を伝えながら体験活動の機会を提供することを通して、自主的に他者とコミュニケーションを図り、人間関係をつくろうとする社会性の育成を図る。

○ 期日

平成29年12月25日（月）～ 26日（火）

○ 参加者

26名（小学1年生～中学3年生）

○ プログラム

第1日目【12月25日（月）】

時 間	活 動 内 容
11:30～11:50	出会いのつどい
11:50～12:30	自己紹介とゲーム
12:30～13:30	昼食
13:30～15:30	活動1「フィールドビンゴ」
16:00～17:00	活動2「シャッフルボード」
17:30～18:00	夕食
19:00～20:30	活動3「英彦山将棋作り」
21:00～21:30	活動の振り返り

第2日目【12月26日（火）】

時 間	活 動 内 容
7:30～ 8:00	朝食
8:30～ 9:00	夜須高原青少年自然の家 退所式
9:00～ 9:30	サンビレッジ茜へ移動
10:00～12:30	活動4「人工芝スキー体験」
13:00～13:30	昼食
13:45～14:00	別れのつどい

○ 具体的な活動

1日目（12月25日）

【出会いのつどい】

出会いのつどいでは、夜須高原青少年自然の家職員、英彦山青年の家職員、講師、学生ボランティアが挨拶を行い、その後、本事業のめあてを確認しました。



【自己紹介とゲーム】

初めて出会った友だち同士が打ち解けあえるように、班での自己紹介や全員でのレクリエーションを行いました。子どもたちの緊張がほぐれ、気軽にコミュニケーションをとる様子が見られました。



【活動1 フィールドビンゴ】

夜須高原の森を歩きながら、自然を楽しみ、みんなで協力しながら問題を解くフィールドビンゴを行いました。子どもたちは、フィールドマップを見ながらコースを話し合ったり、相談したりしながら問題を解いていました。



【活動2 シャッフルボード】

ボウリングのような長いコートで、カーリングとビリヤードの競技を合わせたようなゲーム「シャッフルボード」を行いました。子どもたちは、ディスク（円盤）とキュー（長い棒）を使いながら試合を進めていき、高得点に入ると大喜びしていました。



【活動3 英彦山将棋づくり】

英彦山青年の家周辺に落ちている間伐材を使い、創意工夫しながらオリジナルの「英彦山将棋」を作りました。のこぎりを使いながら丸太を切り、やすりで表面を整え、最後にマジックで絵を書いて駒を完成させました。その後、出来上がった駒を使って英彦山将棋を楽しんでいました。



【活動の振り返り】

今日一日の活動を振り返り、がんばったことを班で交流しました。学生ボランティアを中心に会が進められ、手話や会話で自分の思いを伝える様子が見られました。



2日目（12月26日）

【活動4 人工芝スキー体験】

サンビレッジ茜職員（インストラクター）に、初心者から経験者までレベルに応じたスキーの指導を行っていただき、技術の向上を目指しました。最初は恐怖心からか、なかなか滑れなかった子どもたちが、スキー板を履いて転んだり止まったりする感覚を覚え、徐々に補助なしで滑れるようになりました。



【別れのつどい】

別れのつどいでは、2日間のキャンプ活動をスタッフや学生ボランティアとともに振り返りました。めあてに向かってがんばったことを褒められて、子どもたちは大満足でした。「来年もぜひ参加したい」という声がたくさん聴かれました。



○ 全体をとおして

参加した子どもの保護者からは、「同じ学校以外の子どもや学生ボランティアと話をして、コミュニケーションが取れました。」「難聴の友だちができ、手話を覚えたいという意欲が出てきました。親にはなかなか共感してあげられないことでも難聴の子ども同士で分かり合えて、本人のストレスも少なくなるかなと思いました。」「木工は楽しかったようです。スキーが少し上手になって、とても嬉しい様子でした。」などの感想が寄せられました。このように、子どもたちは、自主的に友だちや学生ボランティア等とコミュニケーションを図り、人間関係をつくっていきました。来年度も子どもたちの社会性を育むプログラムの工夫をしていきたいと思えます。